

令和7年度 学校評価 自己評価結果等

分掌名	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己有用感・自己肯定感を高める教育活動を推進する。 学校全体としての教育力と組織力を高め、特色を確立する。 質の高い教育を持続的に行うために、多忙化解消に向けて取組を進める。 		
総務部	<ul style="list-style-type: none"> P T A事業のあり方を再確認し、よりよいP T A活動を目指す。 自主的な防災者としての意識を涵養する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への情報提供、交流という視点で、役員会等でP T A事業について検討する。 現実的な条件を加えて防災訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等では積極的にP T A活動が行われた。役員会では来年度に向けて事業内容の精選など話し合われた。 「防災新聞」の活用等、防災意識の向上を図った。今年度は雨天案で訓練を実施したが、来年度はより実践的な防災訓練を実施できるよう努めたい。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間を学校教育活動全体と関連させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。 成績処理業務などを見直し、多忙化解消に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間に教科・分掌全体で取り組む環境を整える。 業務のシステム化を進め、担当教員の負担軽減を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間検討委員会を通じて、目標や内容などを具体化することができた。これを元に、教科・分掌全体で取り組む形を引き続き検討していきたい。 成績処理業務のシステム化は少しずつ進めることができた。今後も業務を見直し、多忙化解消に取り組んでいきたい。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> 清掃道具や清掃場所の点検を行い、校内の環境を整え、環境美化への意識を高める。 教育相談を充実させ、生徒が安心して学校生活を送り、悩みなどを気軽に相談できる雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員会を中心に清掃道具の整備と清掃状況を点検し、環境美化への意識を高める。 教育相談委員会を中心として、学年とS C等との連携を密にし、個別の支援が必要な生徒には迅速に支援チームを立ち上げる体制を常時整えておく。 教育相談室を生徒が気軽に入室できるように整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員による清掃道具の点検を年2回実施し、清掃道具の整備を行った。また、教室、廊下階段、トイレの清掃点検を美化委員で月1回行い、不備な箇所の改善を清掃監督にお願いした。今後も環境美化につながる活動を継続したい。 教育相談では生徒や保護者との面談を通して、SCやSSWおよび医療機関や警察とも連携を図り、問題解決に繋げることができた。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全への意識の向上を目指し生徒が危機意識を持ち、安全に登校できる環境を作る。 いじめを許さない雰囲気をつくり、同時に支援を必要とする生徒をいち早く察知し、教員間で連携して支援できるようにする。 身だしなみを整えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室の充実を進める。 いじめ、不登校対策委員会の充実、教育相談委員会との連携を進め、個別の生徒に対する支援チームを立ち上げるなどの対応を迅速かつきめ細かにできる体制を常時整えておく。 身だしなみ強化週間の設定、出会い頭指導の全教員の協力などを通じて生徒に声掛けをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故報告数がR6年度より増加した。大きなけがにつながるものはないが、被害だけでなく加害（追突等）、自損が増えているので、注意喚起を続けたい。 携帯電話・スマートフォンの学校内での使用に対する指導がR6年度より増加した。ルールの変更によるものなのか生徒の意識の変化なのか検証が必要である。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 系統的、計画的なキャリア教育を推進するとともに、生徒の進路希望の実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 系統的、計画的なキャリア教育を総合的な探究の時間を通じて実践するとともに、学年と連携をとり、生徒の進路実現に向けオリエンテーション、学年集会や進路だよりを利用して進路意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 系統的、計画的なキャリア教育を総合的な探究の時間を通じて実践してきた。進路実現に向け各学年と連携をとり、1年生には4月にオリエンテーション、1・2年生希望者対象にインターンシップの紹介、さらに全学年に講演会や進路だよりを利用して進路意識を高めている。
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係形成能力と社会形成能力の育成を目指し、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 社会の変化に、臨機応変に対応し、柔軟な発想で対応できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や行事の活性化により、リーダーを育成する。 花いっぱい、地域美化などボランティア活動を推進し、活動参加を促す。 知立東のつどいなどの行事を通して、ICT活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 議会、委員会を開催して意識を高めようと試みているとともに、ボランティアや委員会活動を通して全体への奉仕の心を育てよう努めた。
図書研修部	<ul style="list-style-type: none"> 図書館・情報機器利用の推進のため教科や学年との連携を進め、豊かな人間形成を目指す。 現職研修を活性化して職員間の相互理解を促進し、教員の専門性を高め、教育技術の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館企画を通して、本への興味を喚起し、来館者数や貸し出し冊数の増加を目指す。 公開授業週間で職員が研究授業や授業参観を積極的に行えるようにする。 生徒用タブレットやBYODの活用により、さらなる教育のDX化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内読書週間に合わせて、クイズ作成やPOP作成などの企画に生徒が取り組める環境を準備した。また、スコラセッションの進行役なども生徒が務めた。 現職研修において、生成A1について多くの先生方に関心を持っていただくことができた。
1 学年	<ul style="list-style-type: none"> 学校における基本的な生活習慣の確立を図る。 高等学校の学習を始めるために必要な基礎・基本を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をしっかりとさせる。 5分前集合を基本とし、時間を守らせる。 提出物の期限を守らせ、出し切らせる指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて、教員・生徒の双方からの挨拶はされていた。遅刻・欠席の目立つ生徒は若干名いるが、多くの生徒は基本的な生活習慣は確立されている。 教科の課題では、期限内に出せない生徒が少しずつ増加している。教科や学年での指導を継続して、学習習慣を定着させ、学習の基礎基本を身に付けさせたい。
2 学年	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する高い意識をもたせ、学習習慣を身に付けさせる。 学校の中核を担う学年であるという意識をもって行動させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な進路目標をもたせるためにきめ細かく指導する。 日々の学習に対するアドバイスをする。 学校行事や部活動に積極的に参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会や面談でのアドバイスや進路課題等により、進路目標について考える機会を与えることができ、それが学習意欲にもつながったと感じる。 年間を通して欠席や遅刻が多く出てしまった。今後も、当たりの前のことが当たり前にできるように、いろいろな立場の教員から声掛けをしていきたい。
3 学年	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標実現に向けて、高い目標をもち最後まで努力を続けさせる。 学校の中心としてどう動くべきかを常に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別面談等で、モチベーションを保つための声掛けや、アドバイスをこまめに行う。 学年集会の講話や日々のS Tなどの場面で、心構えや行動を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の進路実現のために、保護者会や個別面談を通し、進学先の選択などについて話し合うことができた。 最高学年として、多くの生徒に学校行事や部活動などでリーダー性を発揮させることができた。
総合評価	<p>①評価B 生徒会活動、学校行事、部活動を通して、生徒が主体的に活動することができ体制づくりを進めてきた。また、総合的な探究の時間や修学旅行等、機会を捉えて体験的な要素を組み込んだ。生徒によるアンケート結果では、「学校生活は充実している」と回答した生徒が90.6%で、ほとんどの生徒が充実した学校生活を過ごしている。しかし、「自己有用感、自己肯定感が高まった」と回答した生徒は、全学年で64.1%にとまっている。</p> <p>②評価A 昨年度に「総合的な探究の時間検討委員会」において作成した計画を各学年でほぼ予定通り実施することができた。また、実施後には適宜、検討委員会では他学年にも実施状況を報告し、情報を共有することができた。総合的な探究の時間を通して、生徒も現状への課題を持つことの大切さや課題解決のためのスキルの重要性を認識することができた。</p> <p>③評価B I T C機器を活用した授業に取り組む教員が一般化してきた。各分掌において、QRコードを用いたアンケートを実施するなどICTを活用し、業務の効率化を継続できた。きずなネットの送信権限を全主任に委譲することで、保護者連絡の迅速化・効率化も定着できた。昨年度から導入された自動採点システムも利用する教員が増えることで定期考査等の採点を迅速かつ正確に行うことができるようになり、成績処理の一層の改善が図られた。</p>		